

# The Reminiscence of Exellia NG+1

## クロニクルクエスト「Rekindled Embers」 Vol.1「再燃」

### 作成レギュレーション

#### 基本概要

- ・ 経験点：145000 点
- ・ 資金：282000G
- ・ 名誉点：1800 点
- ・ 成長回数：282 回
- ・ レベル制限：13
- ・ アイテムレベル制限：武器ランク S 以上／防具ランク S 以上
- ・ ステータスリミット：各項目ボーナス 15（+増強増分 2）まで

#### 制限事項

- ・ ヴァグランツ／蛮族 PC 禁止
- ・ SW2.0／2.5 標準流派入門・使用禁止
- ・ 武器防具強化に関する特殊制限
- ・ シナリオ報酬の成長回数が 10 以上の時、その 6 割の偏重割り振りの禁止
- ・ 戦利品判定は振ってくれ。

#### その他注意事項

・ 制限を逸脱した成長を行った PC は、レベルシンクが行われます。レベルの上限を突破した成長を行った場合、レベルが下限に合わせられます。

ステータスリミットの制約を無視した成長を行っていた場合、成長の振り直しが行われます。このとき、キャラクターシートのデータは振り直し後のものになります。

・ 成長回数の制約を逸脱した成長を行っていたキャラクターシートが見られた場合、このキャンペーンは強制的に終了します。

### 導入 ～これで灰は二つだ～

君達は、大広間の隅で蹲る赤ずきんの老人に話しかけることになる。

(※GMメモ：RP待機)

赤ずきんの老人

「…ああ、あんた…。…いや、あんたじゃない、あんたの知人を呼んではくれないか？あの女と同じ匂いのする女だ…」

(※GMメモ：RP待機)

君達は、その言葉を聞いて疑問を抱くだろう。

そこへ、エクセリアが現れる。まるで、運命がそうしろと言ったかのように…。

エクセリア

「お前達、何をして…ってなんだ、そりゃ。その赤ずきん…まさか奴隷騎士の…？」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリアは目を見開いて、その存在を見定める。

エクセリア

「…まだ、その世界は終わっていなかったと…、そう言うことなのか…？」

そう言って、エクセリアは赤ずきんの老人に近づく。

赤ずきんの老人

「…ああ、あんた…。…あんた、あの女と同じ匂いだ…。

そうか、あんた、火のない灰だな。そうなんだな！」

(※GMメモ：RP待機)

歓喜のあまり、狂人の如き笑みがこぼれ落ちる。

赤ずきんの老人

「儂はあんたを、ずっと探していたんだよ。オオ…オオ…」

エクセリア

「おい、奴隷騎士。さっさと用件を言え…。ここがどの時代か分かっているのか？」

(※GMメモ：RP待機)

取り乱したことを謝罪する奴隷騎士。その貌は分からないが、彼は幾星霜経ってから現れた『英雄』に、歓喜しているようだった。

赤ずきんの老人

「あんたに、火のない灰に、お願いがあるんだ。…アリアンデルと呼ばれる、ある冷たい国に、儂のお嬢様がいる。彼女に、火を見せてあげて欲しいのさ。《腐れ》を焼く、特別な火だ。あんた《灰》なら、きっと火を求めているんだろう…？」

その言葉を聞き、エクセリアは観念したようにため息をつく。

エクセリア

「…私が長らく放置してきた、腐れによる絵画世界…。今や独自の可能性を現出させ、泡沫世界とさえ呼べる状況になっていた…。私は、それをなんとかしなければならない…。

そうだ、これは依頼として、お前達に投げるとしよう。暫く、帰ってこられると思うなよ、入念に支度をするんだ」

(※GMメモ：RP待機)

ここで、PC 達はアイテムを整理する必要があります。

アリアンデルに突入後、暫くの間は一部のアクションが使用不可能になります。

(※GMメモ：PC 準備待機)

エクセリアが承諾すると、奴隷騎士は持っていたものを見せる。

赤ずきんの老人

「これがアリアンデルの絵画、その腐った切れ端さ。さあ、手に取ってくれよ…」

エクセリアがそれに触れると、エクセリアが吸い込まれていく。

君達を巻き添えに、絵画の世界へと引きずり込んでいく…。

その後、奴隷騎士は笑った。

赤ずきんの老人

「…これで、灰はふたつだ…」

## 泡沫世界（バブルワールド） 終滅世界ロスリック

### 基本原則

この世界にはカルディアのマナはなく、その代わりに集中力（FP）で魔法を構成します。

その性質上、この世界では普段と同じ方法で通常の魔法を使用できず、練技なども使用できません。ただし、魔法については、指定された消費 MP の 3 倍と同じ FP を消費することで、魔法を行使することができます。

例外として、特殊神聖魔法は一切使用できません。

FP は MP と同値のリソースですが、MP を自動回復する効果や、《ルーシッドドリーム》などの回復手段で回復することはできません。その代わり、ラウンドの終了時に最大 FP の 5% ぶんだけ回復します。

### アリアンデル絵画世界特殊裁定

アリアンデル絵画世界では、その寒さによりすべての行為判定に -4 のペナルティ修正を受けています（対し、敵はすべてアリアンデル絵画世界に適応しているため、この補正はありません）。

余談ではありますが、エクセリアは敵と同様に影響を受けません（慣れている、というよりは『元々この理の住民だった』ためです）。

### 篝火前の洞穴

君達は、いつの間にか血の匂いが漂う洞窟の中にいた。

そこに、腐れ漂う不気味な肉塊が纏わり付いた壁面に、獣がいた。辛うじて人のカタチを成しているそれは、喋ることができるようだ。

（※GMメモ：RP 待機）

### 忌み人

「…ああ、ああ…。…ああ、君は、新入りかね？」

珍しいことだ。随分と久しぶりのことだ。けれど君、喜びたまえ。此処こそが、我ら忌み人が探し求めた安息地。冷たく優しい絵画の世界、アリアンデルさ。

…だから君も、早く探すといい。ずっと甘く腐っていく、君の寢床をね…」

(※GMメモ：RP待機)

忌み人

「…ああ、ああ、そうだろう。皆同じさ、酷い目にあってきたんだろう。だが、大丈夫だよ。あんし——ギエエエエア！！」

会話の途中で、その忌み人が刺される。横を見ると、エクセリアがその忌み人を殺していた。

エクセリア

「そいつに構っている暇はない。…ほら、外だ。ついたぞ、目的地に…」

洞窟を駆け上っていき、その先に雪景色を見る。

弱い火の篝火が、君達を出迎えた。

(※GMメモ：RP待機)

君達が篝火に近づくと、唐突にイング＝シゲルが現れる。

イング＝シゲル

「よし、繋がったわ。これで、荷のやりとりは可能になったし、あなた達をその世界から戻すこともできると思う。エクセリア…って、余計な世話だった？」

エクセリア

「余計ではない、ただ…どうやって繋いだ？」

(※GMメモ：RP待機)

イング＝シゲル

「世界の境目を縫って、ここに辿り着くのは容易よ。フフフ、相変わらず面白い子達ね。

つまり、あなた達のものはあなた達と同じに、境目を渡ってこれるということよ～」

イング＝シゲルから、重要な情報を聞き出せた。この凍える世界で、食い倒れになることはないようだ。

(※GMメモ：RP待機)

イング＝シゲル

「早速、原初世界のヒトに現況を伝えてもいいけど、誰に言おうか？」

PC への選択肢

- ・リーンに無事を伝える
- ・エメリーヌに無事を伝える

イング＝シゲル

「しかと承ったよ、じゃ、伝えてくる」

そう言って、イング＝シゲルは篝火から消えるだろう。

エクセリア

「…無事も何も、とはおもうのだが…」

とはいえ、転移魔法の類を使おうとしても、うまく発動できない。どうやら、ここは隔絶された領域であるようだ。

エクセリア

「ここは<ruby>泡沫世界<rt>バブルワールド</ruby>のひとつにして、最古かつ原初の泡沫世界、終滅世界ロスリック」

エクセリアはそう言って、雪原を進む。

エクセリア

「…そう、私の生まれた世界が写し取られた泡沫世界だ」

## 雪原

君達は雪原を征くことになる。どういうわけか、君達を敵は認知しておらず、エクセリアに向かって突っ込んで、斬鉄乱舞や巫覡の剣技で斬り払われていく。

## エクセリア

「治安が終わっている、というように感じるか？まあ仕方ないさ、この世界はこういう理で動いているから」

そう言って、君達を案内する。

篝火の手前で、エクセリアが君達を制止する。

そこには、鹿角を模倣した兜を被った騎士が、狼を連れて数人いた。

**敵：ミルウッド騎士×4、アリアンデルの猟犬×2**

君達は、寒さの中騎士達を一掃した。

(※GMメモ：RP待機)

## エクセリア

「この世界の理に慣れていないと、こうまで戦いづらいか…！」

そう言って、エクセリアは武器をしまうだろう。

君達は、エクセリアの言動に対して不信感を抱くだろう。なぜ、「この世界の理」と言ったのか。彼女とこの泡沫世界に、なんの因果関係があるのだろうか。

(※GMメモ：RP待機)

## エクセリア

「…それを答える暇は、ないみたいだ」

そう言って、エクセリアは坂の上を指し示す。そこには、大狼がいた。

**敵：墓守の大狼**

この敵は、HP が半分以下になると撤退し、自動的に PC 陣営の勝利となる。

君達は、次いで襲撃してきた大狼を退けた。

…いつの間にか、エクセリアがいなくなっている。

(※GM メモ：RP 待機)

エクセリア

「おーい、こっちだ」

見ると、崖下にエクセリアがいた。

高さは 25 メートルほどだろうか、飛び降りても死にはしないだろう。

冒険者セットを使って安全に降りる場合は、以降の判定を一度省略する。

飛び降りる場合は、受け身判定（スカウト or レンジャー運動）を行い、その達成値分のダメージを軽減する。

崖下へ降りた君達は、その足で礼拝堂へと向かうことになるだろう。

アリアンデルの礼拝堂

君達が礼拝堂に辿り着くと、エクセリアに制止される。

エクセリア

「ここは私が対応しよう。…おい、その黒い騎士」

(※GM メモ：RP 待機)

黒い騎士

「…ほう、貴公…、火のない灰だな。鐘の音もなかろうに、なぜ絵画に迷い込んだ？」

エクセリア

「……………」

エクセリアはただ、無言で黒い騎士を睨み付ける。



(※GMメモ：RP待機)

黒い騎士

「…まあいい。道に迷っているのなら、フリーデ様の言葉が導きとなろう。

さあ、中に入れ。そして、謹んでその耳を澄ますがいい」

そう言って、彼はエクセリアに礼拝堂に入ることを許す。

エクセリアに続いて、君達が入っても…認知されていないのか、黒い騎士は特に何か言うことはないだろう。

(※GMメモ：RP待機)

礼拝堂の中で、素朴な椅子に座った修道女が、エクセリアを見るだろう。

フリーデ

「ようこそ、アリアンデルの絵画へ。私はフリーデ。教父様と、そして忌み人の皆と、ずっと共にある者です。…ですが、貴方は忌み人ではありません。火のない灰よ、貴方がなぜ絵画に迷い込んだのか、それは分かりませんが…貴方には使命があり、それはここにはないのです。…貴方の居場所に戻りな——」

会話の途中で、エクセリアがフリーデを斬る。フリーデの姿は一瞬にして消え、幻であったことが分かるだろう。

エクセリア

「…一度吊り橋を戻って、《お嬢様》のところへ行こう。彼女なら、君達を視認できるはずだ」

(※GMメモ：RP待機)

君達は、《お嬢様》のもとへ向かうべく、エクセリアの案内に従うことになるだろう。

鴉村の奥地

エクセリアに案内されるがままに、鴉村の奥地へと辿り着くだろう。

そこで、君達は邪な気配を感じ取った。

礼拝堂の前にいた、黒い騎士が地面から生えてくる。

黒い騎士

「…いつも、どこにでもいる。

逃げる者を追い、隠されたものを暴き、正義を誇る狂人が。そして往々に、覚悟だけは  
足りぬものだ。なあ、異世界の冒険者よ」

その騎士は、君達を認知して襲いかかってきた。

**敵：騎士ヴィルヘルム**

ヴィルヘルム

「…申し訳ございません…。貴女の騎士でありながら…。…エルフリーデ、様…」

そう言って、その黒い騎士は消えていく。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリアが鍵を拾い、仕掛けを動かす。仕掛けによって出現した階段の先に、絵描きの少女はいた。

絵描きの少女

「あなた達は…？」

エクセリア

「私については…その嗅覚が示すとおりだが。

彼らは、私の同行者で、異世界の冒険者だ」

(※GMメモ：RP待機)

(※GMメモ：容姿などについて発言するような内容があった場合 ここから)

エクセリア

「ノータッチ。いいね？」

エクセリアの表情が、もはやしわしわピ〇チュウなのではないかといわんばかりの見苦しいものになっていた。追求してはいけないようだ。

(※GMメモ：容姿などについて発言するような内容があった場合 ここまで)

エクセリアは、彼らと共にここに来た理由を絵描きの少女に伝える。

絵描きの少女

「ゲール爺が…。大丈夫。これが終わったら、あそこに戻る…。あなたが扉を開けてくれたから…。あそこで画を描くって、ゲール爺と約束したから」

エクセリア

「…あんまり言わないようにしていたんだがな。お嬢様、もはや画を描く必要性もないと言えるぞ。なにせ外の世界では、火の時代よりも遥かに先に行く世界になったのだから」

そう言って、エクセリアは手を差し伸べる。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「新たな世界が、君達を待っている」

絵描きの少女

「でも、それなら…この世界を焼いて、終わらせてあげなきゃ」

絵描きの少女から、深刻な言葉が漏れ出した。

(※GMメモ：RP待機)

絵描きの少女

「この世界は…見ての通り腐ってる。それを焼かなければ…新たな世界に旅立つなんて…できないよ」

エクセリア

「…なら、私達はどうすればいい？」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリアの問いと、君達の態度を見た絵描きの少女は、君達にお願いをする。  
——腐れの根源、修道女フリーデを倒して、と。

#### PC への選択肢

- ・…勝利を必ず
- ・冒険者として、その依頼を承る

#### 修道女フリーデ

君達は、仕掛けを解きながら礼拝堂に戻るだろう。

途中、腐れの影響をモロに受ける場所を通ったため、君達は FP を 2d6 点消費することになる。

????

「火が見える。火がまた、チラついている…。きっと血が足りないんだ…。鞭を、鞭を持ってきておくれ…。ああ、フリーデ。君は聞こえているだろう…。お願いだ、鞭を持ってきておくれ…」

謎の男の声が聞こえる。部屋の奥に、異形が見える。

(※GM メモ：RP 待機)

君達が、その異形に近づくと、異形は君達に応答する。

#### 異形

「ああ、あんた。フリーデを呼んでおくれ。見えるだろう？火がまた、チラついている。もうすぐにも、溢れてしまいそうだ…」

そのとき、背後から凄まじい冷気が進む。

#### フリーデ

「…教父様、大丈夫です。まだ鞭は必要ありません。

ただ迷い込んだ灰とその同行者に、火が揺らいでいるだけのこと」

鎌を持ったフリーデの、その鎌に、おびたしいレベルの冷気が纏わり付く。

フリーデ

「…どうか、目を伏せていて下さい。私がすぐに、その火たちを始末しますから」

**敵：修道女フリーデ**

### 第2形態移行

フリーデが地に伏す。

倒れたフリーデから、信じられない量の血が流れ出る。

金色の釜の元まで、血が伝う。その感覚に反応し、目を伏せていた異形が、地に伏したフリーデを見る。

異形

「グアアアアアアアアアアア！！」

発狂し、拘束を解き、金色の釜を地面に叩きつける異形。叩きつけた金色の釜から、おびたしい量の火が吹き出る。

火がフリーデに燃え移り、奇跡の蘇生を果たす。

火を纏って立ち上がったフリーデの背後で、教父アリアンデルは叫ぶ。

**敵：教父アリアンデルとフリーデ**

### 第3形態移行

フリーデが倒れ、教父アリアンデルが爆ぜる。

その直後、空間に声が響き渡る。

——「いつか灰はふたつ、そして火を起こす」。やはり君には、灰には、火が相応しい…

黒炎を纏い、再びフリーデが立ち上がった！

**敵：黒い炎のフリーデ**

**敵バフ：デュナミスの輝き〔2 スタック〕**（HP が 0 以下になるダメージを受けた時、HP を 1 にして耐え、次ラウンドに 1 スタック消費して）

「デュナミスの輝き」を 1 スタック消費した段階で、強制ノックバック攻撃（能力外効果）によってエクセリアが戦線離脱する。

君達は、黒い炎のフリーデを打ち倒した。

エクセリアは解せない様子で、地に伏したフリーデを見る。

エクセリア

「…ひとつ、訊かせてもらおうか、エルフリーデ。

お前…限界を超絶しただろ」

（※GMメモ：RP 待機）

フリーデ

「…なぜ、分かった…？灰の分際で…」

エクセリア

「うーん、経験？確かに、火のない灰は、今人に比べてエーテルが濃い。だが、それだからと言って、己の限界を超えられないとは言っていない…」

エクセリアはそう言って、地に伏したフリーデに手を差し伸べる。

フリーデ

「何を」

エクセリア

「…お前のソウルは受け取れない。だが、この炎で、お前を今人に生まれ変わらせることは可能だろう…。選択は委ねるよ」

そう言って、エクセリアはフリーデに判断を任せる。しかしフリーデは、自らその命を絶って、星海へと還っていった。

その後、視界が一気に歪み、転送される。

視界の歪みが収まった頃には、君達は隠れ家に戻っていた。

（※GMメモ：RP 待機）

## 報酬

### 経験点

- ・ 基本：1500 点

### 資金

このシナリオに資金報酬はありません。

### 名誉点

- ・ 基本：10 点

### 成長回数

このシナリオに成長回数報酬はありません。

### その他報酬

- ・ マジテックトームストーン〔戦記〕：100 個
- ・ マジテックトームストーン〔詩学〕：25 個
- ・ 楔石の大欠片：12 個
- ・ 楔石の塊：12 個